

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年4月7日

【事業所概要(事業所記入)】

| | |
|---------|--|
| 事業所番号 | 4672700145 |
| 法人名 | 有限会社 ひまわり苑 |
| 事業所名 | グループホーム ひまわり |
| 所在地 | 鹿児島県南九州市川辺町上山田4239番地5 (電話) (0993) 58-9038 |
| 自己評価作成日 | 令和5年3月13日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/ |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------------|
| 評価機関名 | NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構 |
| 所在地 | 鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号 |
| 訪問調査日 | 令和5年3月28日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・周りに自然が多く、四季を感じやすい。民家もあり、住みやすい環境にある。
- ・レクリエーションが、体操、歌、脳トレなど多様化しており、毎日その日にしたいことをするようにしている。数字合わせやパズルなどいつでもできるようにしてあり、空いた時間に楽しめる方も多い。水戸黄門の録画を揃えており、いつでも水戸黄門が見れる。
- ・つわぶきや筍など、近所で採ってきたり、菜園でできた季節など季節の食材が食卓に上がることが多い。野菜等皮むきを入居者様と一緒にしている。
- ・誕生会は、一人ひとり誕生日に行っている。誕生日カード(ポスター)を作り、意識づけしている。毎年「こんなことをしてもらったのは初めてだ。」と喜ばれることが多い。
- ・コロナ禍で外出がままならない分、行事や室内飾りなどで季節感を感じられ、楽しめるようにしている。
- ・夏はデッキにプランターを置き、苦瓜やキュウリで緑のカーテンを作った。成長や収穫を気にされ楽しむことができている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、複数の看護師による健康管理や受診支援及び緊急時を含めたかかりつけ医との協力体制が築かれており、本人・家族の安心につながっている。
- ・コロナ禍のため地域との交流は自粛しているが回覧板での地域情報を把握し、3年振りに実施された太鼓踊り見物では住民とも交流している。また、小学生とのビデオレターでの交流も継続している。
- ・コロナ禍で運営推進会議は書面開催であるが、各委員から返送された意見に事業所の回答を加えた報告書を再度送付して相互理解を深める工夫を行っている。
- ・面会の環境整備のための面会室の造設や年4回の苑だより発行及び定期的な近況報告により、家族とのつながりが途切れないよう取り組んでいる。
- ・代表者・管理者は、時短勤務やリフレッシュ休暇などを導入し、職員が働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている | 事務所やトイレなどに理念を張り、職員が常に目にできるようにしている。 | 理念をパンフレットに掲載すると共に事務所やトイレに掲示して職員が各自で確認できるようにしており、申し送り時にケアの振り返りを行っている。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 太鼓踊りが3年ぶりに実施され、近くの公民館で地域の方と一緒に見学ができた。地域の小学校とは顔を合わせることはできないが、手紙やビデオレターで交流している。子供たちが育てた唐芋を頂いている。地域の消防団へ災害時の協力はお願いできている。 | 自治会に加入し回覧板で地域の情報を得ている。小学生とのビデオレター等による交流のみ継続し他の行事は参加を控えているが、屋外で実施される太鼓踊りは住民と一緒に見物し写真を撮るなどの交流ができた。 | |
| 3 | | ○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。 | コロナ禍で集まることも少なく、ホームの方からの働きかけは行っていないが、経営者が地域在住なので、代理で貢献している。集まらなくても、働きかけができる方法を検討したい。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 書面で開催している。行事、研修、事故ヒヤリハット報告、身体拘束等適正化対策委員会報告、感染対策など報告している。市から運営推進会議の手引きが届いたので、それに添いつつ実施している。書面でも状況が分かりやすいようにと、写真や苑便りを利用している。 | 運営推進会議はコロナ禍のため書面で開催し、市の手引きに沿った事業所の状況報告等の資料を各委員に送付し、意見を返送してもらっている。委員の意見に事業所からの回答を付けた報告書を再度送付しており、相互理解に役立っている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。 | 分からないところがあれば、相談している。運営推進会議の書面で取り組みは伝えている。2号被保険者の入居者様が障害者施設の方に移ったが、その際は障害福祉課や福祉事務所と交渉・連携を取り実施できた。 | 市の担当者とは、運営推進会議資料で事業所の取り組みを伝え、必要時は相談に出向いている。利用者の処遇についても関連部署と連携して取り組んでいる。市主催の研修会はオンラインで受講している。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 身体拘束等適正化対策委員会は概ね3か月に1回実施。身体拘束虐待、倫理観について、研修を行っている。身体拘束は、実施していないが、それにつながるような介護についても、動画やオンラインで研修を行った。 | 指針を作成し、委員会を3ヶ月毎に、研修会を年2回実施している。不適切な言葉かけに気を付けており、玄関の施錠はせず、利用者が外に出たい場合は一緒に散歩するなどの対応で、行動を制限しないケアに取り組んでいる。職員の様子を見て声掛けをするなど職員のメンタルケアにも配慮している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 身体拘束等適正化対策委員会でも身体拘束と合わせ振り返りを行っている。虐待まではいかない、不適切な介護についても研修をし、防止に努めている。運営規定にも「虐待の防止のための措置に関する事項」の追記を行っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。 | 利用を検討した入居者様がいたので、制度の概要については把握できている。検討の結果現代理人との関係性を考え、利用を先延ばしした。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 9 | | <p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> | <p>契約時は、できる限り事前に契約書等を渡し読んで頂いた上で、コロナ禍でもある為、速やかに説明を行うよう心掛けている。理解を確認の上で、契約や介助の署名・捺印をもらっている。改定については、文書でお知らせし、書面で了承を得ている。</p> | | |
| 10 | 6 | <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p> | <p>日頃の会話や入居者様同士の会話から思いを把握するようにしている。ご家族には面会の際に、ご家族・入居者様の思いと不満はないかを尋ねている。面会者かカードにアンケート・意見を書く欄をも受けているが、意見を書く方は少ない。運営推進会議の書面実施で、アンケートを実施した。</p> | <p>利用者の要望は日常会話や家族から聞き取って対応している。家族には面会時等に要望を聞いて対応に努めている。面会室でのガラス越し面会時に声が聞き取りにくいとの意見が出されており、器械導入について検討中である。</p> | |
| 11 | 7 | <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p> | <p>小規模の事業所なので、日常的に職員は意見や提案を行い、それを反映しているが、何も言わない職員もいるので、個々で意見を求め、全員の意見を聞けるようにしている。</p> | <p>管理者は、日常の勤務の中で随時職員からの意見を聞いており、個別の勤務時間設定やリフレッシュ休暇導入等、働きやすい就業環境作りに反映させている。</p> | |
| 12 | | <p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p> | <p>資格取得の為の休みの相談がある時は希望に添うように調整している。ストレス軽減やマンネリ化を防ぐためにリフレッシュ休暇を導入している。時短を希望する職員にも早出をするなどして対応している。</p> | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13 | | <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | <p>研修の案内を掲示し、参加希望を募っている。職員の能力を見て、参加を勧めたりしている。外部研修は、オンラインで参加している。また、内部研修も一斉に集まらなくてもできるように、動画を指定して見てもらったりしている。見た後に、レポートを提出してもらったり、話をしたりしている。</p> | | |
| 14 | | <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> | <p>管理者は、管理者同士で電話で連絡を取ったり、GH連絡協議会の役員会などで話をしたりしている。コロナ禍にあり、職員の他の事業所との交流はできていない。</p> | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前にできる限り面会に行ったり、コロナ前は見学もできれば本人様にもきていただくようにしていた。要望や不安な点を尋ね、安心して入居できるように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居申込の際より、困っていることや心配なことを聞き、相談に乗っている。面会時に近況を話したり、遠方の方には時々写真や近況を手紙にして送っている。近況を話しかえて心配する方もおり、状況は把握しつつ安心して頂くように心がけてはいる。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご家族からの情報だけでなく、病院の相談員や居宅ケアマネから情報提供を頂いている。できるだけ面会して、本人様を見て、検討・判断するようにしている。できる限り対応できるように検討するが、設備や医療行為の必要性等、また現在の入居者様の状況との兼ね合いにより入居が適正でない判断することもある。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | つわや柿をむいてもらい、作り方を入居者様に尋ねたりしている。入居者様が張り切りすぎて無理をしようとする事あり、安全にほどほどに行えるようコントロールしている。日常的に能力や意向に合わせ、洗濯物たたみやチリ紙折などできることを行ってもらっている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | <p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p> | <p>窓越しや面会室で面会が可能になり、面会時に日頃の状況や言葉を伝えている。遠方の方へは写真や手紙で状況を伝えている。誕生日など動画撮影し、面会時に見てもらっている。自分たちが家族へ日頃の状況を伝えていくことで、少し離れているように見えた家族とっ本人様の隙間が埋まっていくように実感することがある。</p> | | |
| 20 | 8 | <p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p> | <p>太鼓踊りや入居者様の地元のひまわり畑を見に行ったりはしている。面会は、申し訳ないが2親等以内に限定してもらっている。</p> | <p>面会時に動画を見てもらったり、事業所から年4回の苑だよりや写真・手紙を同封して近況報告を行うなど、家族との関係が途切れないように努めている。利用者が馴染んできた行事への参加も支援している。</p> | |
| 21 | | <p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p> | <p>他者への口出しが多い方や盗られ妄想のある方などトラブルを起こしやすく、仲裁に入って収めている。短期記憶障害もあり、自覚が持てないので、対応に苦慮することが多い。対症的に対応しつつ、作業やレクリエーションを通し、気持ちを共有し一緒に暮らす仲間であると認識できるように支援している。</p> | | |
| 22 | | <p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p> | <p>コロナ禍にあり、病院等の面会もできないので、電話があったら対応している。個人情報でもあるので、むやみに尋ねたりはしない。</p> | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | ケアプラン更新時には改めて話をし意向を聞くことはある。日常生活の中で細かい意向などについては把握しつつ、日頃の会話や素振りから推測して把握するようにしている。(言葉に出せない人や言葉と裏腹の人もいるので) | 日常の利用者間や職員との会話の中で本人の希望等を把握するように努め、家族の協力も得て対応に当たっている。意思表示が困難な場合は、素振りや行動、家族の情報を参考にして推測して支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 居宅ケアマネや病院からの情報提供を受けたり、入居時にご家族や本人様から聞き取っている。日頃の会話の中でも、生活歴や嗜好を把握する様に話を聞いたりしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 職員間で、引継ぎや日頃の会話、介護記録で状況を把握・共有している。プラン作成時、アセスメントシートやマッピング技法を使って、現状や見通しを把握するようにしている。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人様やご家族から希望や意向を聞いている。介護職や受診時の医師の意見等、介護認定調査の資料など集約し、プランを立てている。モニタリングは2カ月に1回、評価は6か月～1年で行っている。ご家族や本人様の意向が、本当はどこにあるのか日頃話をする中から探っている。 | 日常生活の中で把握している本人の希望や家族から出された要望を基に、医師・職員の意見を入れて介護計画を作成している。モニタリングを2ヶ月毎に、見直しは6ヶ月～1年で実施し、状況変化に応じた見直しも行っている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日勤帯・夜勤帯ともに介護記録を記入。バイタルチェック表や業務日誌・排泄表も合わせ、見直し、評価、アセスメントに繋げている。介護記録に必要な情報が書かれていなかったり、読み返した時に情報が足りないこともある。職員間の情報の要不要の判断基準に差がある。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | GH1ユニットだけの会社なので、柔軟な対応はできていると思う。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 小学校との交流は、コロナ禍で直接的には行えないが、動画のメッセージを見てもらったり、作品を飾ったりしている。入居者様も見て喜ばれている。地域のAEDの場所は把握している。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医は、入居時に本人様・ご家族の希望や病状に応じ決めている。なるべく入居前の馴染みのある病院で見ていただくようにしている。無料で受診介助しているが、看護師が受診介助するのは、川辺町内かそれと同等の距離程度としている。かかりつけ医には、日頃の状況を報告したり、気になるところを相談したりしている。 | 契約時に確認して本人・家族の希望するかかりつけ医の継続を支援している。他科受診も含め近距離の場合は、家族と話し合っ事業所で受診支援を行っている。緊急時はかかりつけ医への連絡や緊急搬送を行い、適切な医療が受けられるよう支援している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 医療連携加算はとっていない。医療的なことは、ホームの看護師の資格を持つ職員が対応している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時にサマリーを提出したり、立ち会って情報提供したりしている。コロナ禍にあり、面会はできなかつたりする為、相談員や看護師から情報をもらっている。退院の時期や状態についても相談したり、退院時の情報提供も受けている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 医療連携加算も取っておらず、ターミナルの対応もしていない。その旨、入居時に説明している。設備が重度化に対応していないこと、流動食などの医療行為に対応できないことが理由であるが、できるだけここでとのご家族の希望もあり、医療行為が必要になるまではできる限り対応している。次の施設との連携を取るなど支援している。 | 契約時に重度化等の場合の対応について説明している。病状変化時には入院や施設入所等の選択肢についても説明している。重度化等の場合、医師から家族への説明を受け家族の意向を確認して、事業所でできる支援に取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 事故発生や感染症発生時のマニュアルは作成してあり、コロナ感染が起きた場合のシュミレーション動画で研修を行っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | 13 | <p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p> | <p>今年度は1回自分たちで避難訓練を行い、1回は、消防署員を呼んで避難訓練を実施した。地域の消防団にも協力を依頼している。自動通報装置・スプリンクラーの設置も行っている。1年に1度消防設備の点検も受けている。</p> | <p>年2回昼夜想定 of 火災避難訓練を実施し、1回は消防署の立ち合いを受けている。消防団等との地域の協力体制を築いており、自動通報装置やスプリンクラーも設置している。非常用の備蓄は、3日分の水・乾パン・冷凍食品・かゆ・インスタント麺等の食料のほか、カセットコンロや頭巾も準備している。</p> | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | <p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p> | <p>生活歴や思いを知り、一人ひとりの人格を大切にし、声かけや対応をするように気を配っている。が、排泄の声掛けなどぞんざいな印象を受けることがある。</p> | <p>年1回研修を実施し、さん付けでの呼びかけや入室・ケア前には声掛けするなど、一人ひとりの人格を尊重した対応に努めている。</p> | |
| 37 | | <p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p> | <p>自分で希望や意見を表出できる方も多いが、遠慮される方もいらっしゃる。表出できない方や本音はどこにあるのかを日頃の会話の中で模索しつつ、本人様にどうしたいかをゆっくりと尋ねている。。着る服や、おやつや水分など、選択の機会を作っている。</p> | | |
| 38 | | <p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> | <p>集団生活でもあり一応の流れがあるので、幾分画一的になる部分もあるが、なるべく、一人ひとりの生活歴や思いを理解し、その人に合った支援を心がけている。入居者様の中には不公平感を口にする方や、レクや入浴の拒否が多くなる方もおり、不公平感を感じさせず、一人ひとりの希望に合った生活を心がけているが、難しい点も多い。</p> | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している | コロナ禍にあり、希望者はホームでカットしているが、伸びがちになっている。おしゃれなキャップや髪留めなどを使用して身だしなみを整えられるよう支援している。また、どの服を着るか一緒に選んでいる。 | | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 旬のものや、郷土料理、行事食を取り入れて工夫している。入居時に必ず、嗜好を尋ねるようにしている。経営者の親族が釣ってきた魚をその日のうちに刺身で提供することもある。嚙下に問題がある場合も、その日の食事を見ながら、どの位に刻むかを決めている。 | 献立は職員が作成し、一人ひとりに合わせた刻みやかゆ食などを提供し、利用者も一緒に下ごしらえや保存食づくりをしている。季節の行事食や誕生日のケーキ・好物、駐車場の花見等を楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量は全員、水分量は必要と思われる人の記録をしており、摂取量のチェックは必ず行っている。水分は、種類や温度を変えたり、トロミUPし摂取しやすくしている。栄養量が低下していると思われる方は、食べられる物を模索し提供したりしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | スポンジブラシや洗口液を使うなど、その人に合った口腔ケアを行っている。口腔ケアの際に口腔内の確認も行っている。毎晩、洗浄剤の使用は介助で行っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 本人様の尿意がある限り、それに合わせてトイレ介助を行っている。尿意の表出がない方は、排尿パターンを把握し、介助している。個人に合わせて、介助に入るタイミングや声かけの仕方を工夫している。夜間ポータブルトイレ使用の方も、できる限り日中はトイレで排泄できるように介助している。 | 排泄パターンに応じた声掛けや誘導を行って、昼間はトイレでの排泄を基本に支援しており、排泄の失敗が減少した利用者もいる。転倒と排泄の失敗予防のためポータブルトイレを使用する利用者もいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便の記録は全員取っている。その記録を見ながら、下剤が必要な方は調節している。トイレがほぼ自立の方が排便の確認がなかなか取れない。水分の摂取・運動・食事内容に気をつけている。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している | 一応の入浴表を作っており、体調を見ながら、入浴声かけを行っている。入浴時は温まるように入浴剤使用している。今冬は柚子やボンタンの皮を入浴剤代わりに使用したこともある。入浴時は残留塩素を毎日計測している。拒否のある方は再度声かけしたり、翌日に声かけたりしている。入る順番で揉めることがある。 | 週2～3回の入浴を午後に実施している。ゆず湯やボンタン湯・入浴剤も使用し全員に浴槽で個浴を楽しんでおり、体調によって清拭を実施している。同性介助も必要に応じて行っている。嫌がる場合は、人や時間を変えて声掛けし入浴している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 就寝時間も本人様の意志であるが、その日の体調や行動、眠気を見て帰室声かけや介助することもある。気温や湿度の調整、雨戸を閉めて温度や音などの調整をしたりして、よく眠れるように支援している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬情書をケース記録に綴っている。薬が変わったらその都度報告がある。服薬介助は3段階にチェックができるようにしている。薬の効果については朝のミーティングなどで話している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | レクリエーションでは脳トレや歌、創作、ゲームなど多種用意し、その日に入居者様の意見を参考にしながら決めている。チリ紙折や洗濯物たたみ、野菜の皮むきなどをスタッフがお願いする態で作業に参加してもらっている。 | | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。 | コロナ禍にあり、日常的な外出は控えているが、太鼓踊りやひまわり畑の見物など、屋外でも密でない場所であれば、状況を見つつ行っている。 | 日常的には、敷地内の散歩でツワ採りやサワーポメロ収穫を楽しんだり、ベランダで日光浴をしている。ひまわり畑見物のドライブや地域の太鼓踊り見物等、感染予防に配慮しながら取り組んでいる。個別に受診時のドライブも行っている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 基本的に、お金の所持はお断りしている。必要な場合は建て替えているが、どうしてもお金を持たないと心もとないという方は家族立ち合いで金額を確認している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している | 電話の希望があれば、必要に応じて介助するし、かかって来ても、子機で居室でゆっくり会話できるようにしている。年賀状は出せるように支援している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 面会室の工事があり、不穏をきたした方が1名いたが、声かけにて対応している。気温、湿度は基準を決め管理している。昭和の今のイメージを大切に、季節の創作品を飾ったりしている。換気の為、窓を開けると風邪を嫌がる人もおり、工夫して換気している。 | ホールは空気清浄機や加湿器があり適度な室内環境に調節し、換気も上部の窓を開閉している。季節の作品を飾り、仏壇があり、毎朝手を合わせる利用者もいる。テレビ室やベランダに繋がっており、ソファやいすが置かれており、利用者が好みの場所でくつろげるようにしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テレビ室のソファの座席が自然と固定されており、トラブルが起ることあり。間に入り対応している。ホールのサッシの方に椅子を置くと、一人で日向ぼっこしたり、庭を眺めながら過ごすことができる。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 写真を飾ったり、好みの物を持ち込んでいる。ラジオが好きな方は居室で聞いたりしている。 | 居室には、ベッドやタンス・エアコンが備えてあり、寝具は本人持ち込みまたは事業所備品である。衣装ケースやラジオ・化粧道具等の身の回りの物を持ち込んだり写真や塗り絵の作品を飾って、安心して過ごせる部屋作りをしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すりが全体についている。ほぼバリアフリーになっている。ベッドの高さは一人ひとり立ち上がりやすいように調節している。居室の前に大きめにひまわりの表札をつけている。 | | |

V アウトカム項目

| | | | |
|----|---|---|---------------|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者の |
| | | | 2 利用者の2/3くらいの |
| | | | 3 利用者の1/3くらいの |
| | | | 4 ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38) | ○ | 1 毎日ある |
| | | | 2 数日に1回程度ある |
| | | | 3 たまにある |
| | | | 4 ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4 ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4 ほとんどいない |

| | | | |
|----|--|---|---------------|
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49) | | 1 ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2 利用者の2/3くらいが |
| | | ○ | 3 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4 ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4 ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4 ほとんどいない |
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19) | | 1 ほぼ全ての家族と |
| | | ○ | 2 家族の2/3くらいと |
| | | | 3 家族の1/3くらいと |
| | | | 4 ほとんどできていない |

| | | | |
|----|--|---|---------------|
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19) | | 1 ほぼ毎日のように |
| | | | 2 数日に1回程度ある |
| | | ○ | 3 たまに |
| | | | 4 ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4) | | 1 大いに増えている |
| | | ○ | 2 少しずつ増えている |
| | | | 3 あまり増えていない |
| | | | 4 全くいない |
| 66 | 職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12) | ○ | 1 ほぼ全ての職員が |
| | | | 2 職員の2/3くらいが |
| | | | 3 職員の1/3くらいが |
| | | | 4 ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4 ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | | 1 ほぼ全ての家族等が |
| | | ○ | 2 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4 ほとんどいない |